

市内すべての子らに農業を！ 「グリーン・ルネサンス推進事業」

豊かな平野に恵まれ、炭鉱閉山後は農業を基幹産業として発展してきた美唄市。稲作を中心とした道内有数の穀倉地帯である。そんな美唄市で、平成22年度から開始した、「グリーン・ルネサンス推進事業」。これまでもいくつかの小学校などの「総合的な学習の時間」で農業体験は行なわれてきたが、それを全市的に広げていこうという取組みだ。子どもたちが「生きる力」を育むためには、「地域に根ざし、暮らしに学ぶ」ことに基礎を置いた農業体験こそがキーになるという思いが込められている。

■学校で一貫した食農体験100%、給食の地元野菜率45%目指して

市の教育委員会の事業として、はっきりと数値を掲げて目標に取り組む。例えば「作物の栽培・収穫・調理・食べることを一貫的に取り組んでいる小学校の割合」が平成20年度は86%だったのを26年度までに100%に。「作物の栽培・収穫・調理またはお手伝い・食べることを一貫的に取り組んでいる幼稚園の割合」が平成20年度は80%だったのを26年度までに100%に。「学校給食における美唄産農産物（生鮮野菜）の活用割合」が平成20年度は36%だったのを26年度までに45%に。

市内に11校ある小・中学校の農業体験では、それぞれの学校ごとに、農家をはじめとしてさまざまな関係者が支援。保護者たちも、地域の基幹産業である農業や食を子どもたちに伝えることの重要性については高い意識を持っている。また農家たちも、忙しいときでも自らの作業日程を調整して農業体験学習に参加し、「こういうのはどうだろう」と、新しい体験について提案してきたりもする。まさに全市をあげて、美唄の子どもたちの将来を支えていこうとしているのがうかがえる。

■保育所・幼稚園から小中高まで…成長に応じて農業体験もステップアップ

これまでも小学校の6年間で稲作体験を続けてきた子どもは、中学校の農業体験では驚くほど手慣れていて、小学校での経験の成果がはっきりと現れだしている。

グリーン・ルネサンス推進事業では、このように、農業体験をただ小学校だけのものとはせず、保育所や幼稚園から小学校、中学校、高校と、途切れることなくつづく「学びの連続性」を重視。小学校で栽培体験をしてきた子どもたちが中学では農作物の加工について学ぶなど、成長に応じて内容を深めていく。さらにその体験を基礎として、中学校におけるキャリア教育の選択肢の一つとして農業を位置づけていきたいとも考える。地元の美唄高校農業科や大学なども連携を図りながら学びの系統性を持たせ、成長に合わせた「生きる力」、また、美唄に対する「ふるさとを思う心」も成長に応じていろいろと感じていってほしい、そのための農業体験。

この事業を通して子どもたちはどんな大人に成長していくのか、地域みんなが楽しみに見守っている。